

彙報

研究部門—東アジアに於ける密教の流伝

バングラデシュ密教学術調査概要

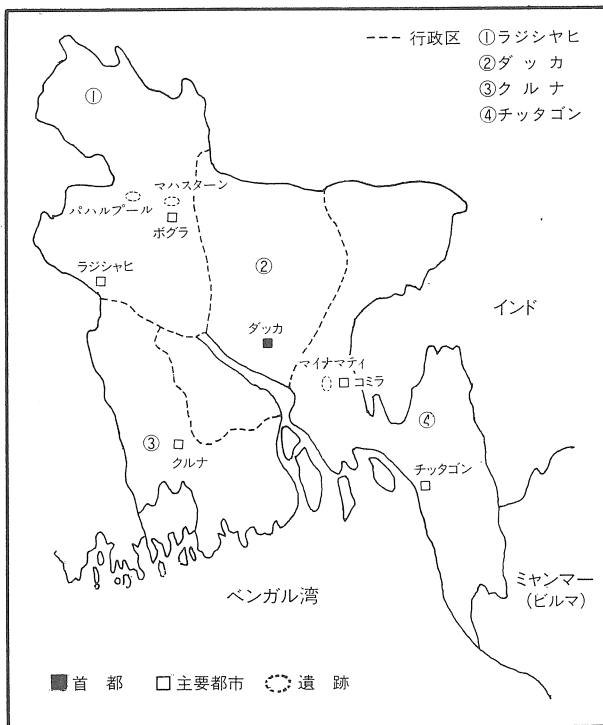
1 調査の目的

インド密教の歴史的な研究は、経典・注釈書・歴史書といった文献操作を中心に、戦後急速に進歩しました。しかし近年における、密教遺蹟の発掘報告や密教遺品の収集報告は、しばしば従来の文献のみにおける研究成果に訂正や確証をあたえています。そのため、これまでの文献研究に、現地で発掘収集された遺蹟・遺品の調査による成果を加えて、それらを総合的に研究し、新しい視点からインド密教史を見直すことの必要性がでてきました。

そこで、当研究所では、平成三年度より密教に関する研究事業として、弘法大師の著作をはじめとする日本密教の研究に加え、新たに東アジアにおける密教の流伝の実態を研究すべく、海外での現地調査を進めることになりました。そしてその手初めに、インド本国において八世紀から十二世紀に亘ってもしっかりも密教が繁栄したパーラ朝の本拠地である、バングラデシュの密教遺品・遺蹟の予備調査を行うことになりました。

2 調査の概要

現在のバングラデシュは、下の〔図〕に上げたようにブラフマプトラ河の下流にあるジャムナー(ヤムナー)河と、ガンジス河の下流にあるパドマ河とはさまれたラジシャヒ地区、その南のクルナ地区、パドマ河を南北にはさむダッカ地区、インド、ミャンマー(ビルマ)に接したチッタゴン地区の四行政区(Division)からなります。このうち、もっとも多く仏教遺蹟が発見されているのはラジシャヒ地区です。この地域は玄奘三蔵の『西域記』に「プルナバルダナ」として紹介されており、この地区最大のマハスターン遺蹟群の中の一つはヴァスビハラに比定されており、ソーマプラ寺跡のあるパハルプールもその西にあります。またチッタゴン地区は『西域記』の「サマタタ国」に比定されており、コミラの西にはマイナマティ遺蹟群(ロヒタギリ)が南北に広がっています。今回は、予備調査のため日数が充分でなかったため、主として調査地は東ベ



ンガルのダッカ博物館と、北ベンガルのヴァレンドラ博物館にしばり、仏教遺

品を中心に調査することになりましたが、途中変更してパハルプールにある仏教遺蹟、ソーマプラー寺跡をも視察する機会を得ました。

なお今回の調査には、松長有慶所長と乾仁志講師が派遣されることになり、以下の通り平成三年四月三日から十日にかけて現地調査を実施しました。

四月三日

大阪発、バンコク着。

四日

バンコク発、ダッカ着。

五日

ダッカ博物館にて調査、仏教・ヒンドウ教遺品の写真撮影を行う。

六日

前日に引き続きダッカ博物館にて写真撮影を行う。

七日

ダッカ発、ラジシャヒ着。

八日

ラジシャヒから車でパハルプールに向かい、ソーマプラー寺跡、およびパハルプール考古博物館を視察する。

その後、ラジシャヒに帰る。

九日

ラジシャヒのヴァレンドラ博物館にて調査。

十日

ラジシャヒ発、ダッカ着。

十一日

ダッカ発、バンコク着。

十二日

バンコク発、大阪着。

【ダッカ博物館 Bangladesh National Museum】

博物館に関する今回の予備調査で、唯一写真撮影ができたのはダッカ博物館の展示品で、仏教遺品に関しては、ブロンズ像を含めると、ラジシャヒ博物館よりも多くの遺品を視察することができました。比較的大きな像としては、パール朝の美術品によく見られる、黒い光沢のある玄武岩から作られたものほとんどで、また念持仏として用いられたであろうと思われる小さな像は、数点を除いて、その大半が青銅製のものでした。それらを合わせた、その内訳は、如来像が8点、菩薩像が9点、守護尊が2点、女尊が16点、財宝神が1点の合

計36点になります。如来像は触地印と禪定印の仏陀像、また菩薩像は観音と文殊で占められています。また後期密教に属する秘密仏である守護尊としては、パハルカ像があります。現在までに確認されているパール朝時代のヘルカ像は少なくとも9点ありますが、ダッカ博物館に所蔵されている黒玄武岩のヘルカ像もその一つです。ただし今回同所で見えたブロンズのヘルカ像についてはまだ報告されていないようです。男尊としては、この外に財宝神のジャンバラ像が1点ありました。女尊では、やはり観音系統のターラーが多く、その他、パルナシャバリー(葉衣)が1点、マハープラティサラー(大随求)が3点、シタータバトラ(白傘蓋)、マリーチー(摩利支)、ハリーチー(訶利帝)が各2点づつあるのが確認できます。この外、奉獻塔が2点、また写真撮影はできなかったのですが、木製の尊像が2点、そしてパハルプールやマイナマティの両遺跡から集められたテラコッタがたくさん展示されていました。しかしテラコッタを除いた数では、シヴァ神や、ヴィシュヌ神、スリーヤ神で占められたヒンズー教諸神の尊像の数には、はるかに及びません。ジャイナ教のものはずか1点でした。なおダッカ博物館にはブロンズのピンドーラ(ピンズル尊者)像とヘーヴァジラ像があると既に報告されていますが、今回の調査では確認できませんでした。

【ヴァレンドラ博物館 Varendra Research Museum】

ヴァレンドラ博物館では、ちょうど展示品の準備中であつたため、写真撮影はできませんでした。仏教遺品は館内に28点ばかり展示されていましたが、展示品の中にはブロンズ像が含まれておらず、ブロンズ像を除いた遺品の点数では、ダッカ博物館より多くのものがありました。これらには、まだパネル表記がなされていませんでしたが、その内訳は、如来像が11点、菩薩像が8点、女尊像が6点、護法尊が1点、財宝神が1点、奉獻塔が1点になります。それから奉獻塔は館外にも2点ありました。なお護法尊としてあげた1点は、マハーカーラ像ではないかと考えております。パール朝時代のマハーカーラ像として

確認されているのは僅かに3点にすぎないので貴重なものといえるかも知れません。仏教以外のものとしては、ジャイナ教の遺品が2点ありましたが、その他大半はヒンズー教のもので、ダッカ博物館同様、仏教遺品よりもはるかに多くのものがありました。

【バハルプール考古学博物館 Paharpur Archaeological Museum】

この博物館はソーマプラ寺跡の東側ゲイトのすぐそばにあります。ソーマプラ寺跡から出土したものを展示しているのですが、規模は比較的小さく、遺品の点数も多くありません。時間の関係上、一々の遺品について確認することができず、また写真も撮れなかったので、くわしく報告できませんが、そのほとんどはヒンズー教の諸神で、仏教遺品は少なかつたように記憶しています。ただ、その中に明妃を抱いた¹⁰弱のヘーヴァジラ像があるのが注目されました。現在確認されているヘーヴァジラ像は僅か3点にすぎないのですが、これもその一つで僧侶の念持仏として祀られていたものようです。

【ソーマプラ寺跡】

ソーマプラ寺は、パーラ朝の三代目デーヴァパーラ王が前王ダルマパーラ王を記念して建立したものとされます。その寺跡に見られる基本プランは、地上から¹¹（1170²）あったと言われる中央の十字形大ストゥーパを中心に、その周囲を小室の列が廻廊状に取り囲んだ正方形になっています。また四方の小室の列の中央にはそれぞれ出入口があり、ヴィクラマシラー寺と同様に北門が最も大きくなっています。小室の数は一七七室にのぼり、外周全体の広さは、南北が276.6m (=922ft)、東西が215.7m (=709ft) であると言われているので（D・ミトラ女史は、一辺を822ft=246.6mとする）、その規模は後に発掘されたヴィクラマシラー寺にはば匹敵する広大なものであったことが分かります。またソーマプラ寺の中央ストゥーパの基壇には多くのテラコッタが残っています。そこには仏教の仏、菩薩を始めとする尊像の外に、ヒンズー教諸神の像も

多く、そのほか多彩な人物描写や動物などが生き生きと描かれています。また基壇の下部は現在土に覆われて見ることができませんが、そこには多くの仏龕があり、いずれもヒンズー教の諸神がまつられていることが報告されています。それゆえ、ストゥーパの外観はテラコッタを含めて極めてヒンズー教色の濃いものになっています。

3 むすび

以上、今回の調査事項について概略を報告しましたが、当研究部門では、今後さらに今回調査の及ばなかった博物館や遺蹟の調査を進め、パングラデシュに残る仏教遺品の総合調査を行なって現地資料を多く収集するとともに、文献と照合してそれら遺品の位置付けを行なっていく予定であります。

弘法大師著作研究部門

・平成二年度中に、『定本弘法大師全集』全十一巻の第一巻・第七巻を刊行する予定でありましたが、諸般の事情により年度内に出版することができず、まことに残念でした。

・別記のごとく、平成二年度は東寺と仁和寺において、聖教調査を行いました。調査にあたり、御便宜・御協力をいただきました東寺・仁和寺の関係各位に、改めて甚深の謝意を申し上げます。

平成二年度調査典籍

一 東寺（観智院金剛藏聖教、10・2〜4）※最下段は函・典籍番号

撰大毘盧遮那胎藏成就儀軌

一巻 平安初期写

26・15

金剛頂蓮華部心念誦儀軌	一卷	平安中期写	26・32				
大毘盧遮那經普通真言藏成就瑜伽	二卷	天永4年写	29・2				
大毘盧遮那成仏神變加持經	七帖	延久6年写	29・5				
秘密漫荼羅十住心論 卷第四・五	二帖	久安6年写	51・1				
法則集	三卷	鎌倉後期写	67・1				
三昧耶戒序	一帖	嘉曆元年写	76・3				
金剛峯寺縁起	一卷	南北朝時代写	110・7				
金剛峯寺建立修行縁起	一卷	觀応2年写	110・42				
性靈集 卷第七	一帖	建長7年写	139・1				
性靈集 卷第九	一帖	文永2年写	139・2				
性靈集 卷第一	一帖	平安末期写	139・3				
天台座主付法次第	一卷	承安2年写	145・42				
実恵伝記写	一通	安永3年写	153・18				
高野雜筆集	二卷合一帖	鎌倉中期写	154・1				
最勝王経開題	一卷	保延4年写	159・1				
如意輪神呪式経	一帖	永万元年写	159・2				
作法集	一帖	治承4年写	176・2				
作法集	二册	元亨2年写	176・5				
仁王経次第	一帖	文永7年写	180・12				
(文書) 延喜三年十月二十六日官宣旨統紙	三紙	江戸初期写	185・32				
大悉曇章	一帖	平安中期写	201・3				
大悉曇章別本	一卷	南北朝時代写	201・9				
大悉曇章本末	一卷	貞和4年写	201・16				
大悉曇章本末	合一卷	南北朝時代写	201・18				
梵字悉曇字母并积義	一卷	平安後期写	205・3				
梵字悉曇字母并积義	一帖	鎌倉初期写	205・9				
密教師資付法次第第十	一卷	長曆3年写	251・2				
根本大和尚真跡策子等目錄	一卷	永曆2年写	251・3				
伝教慈覚受法次第	一卷	文和3年写	251・14				
伝授目錄	一帖	仁安3年写	258・128				
表白集	十一帖	鎌倉中期写	286・15				
三親王灌頂儀式 昼作法	一卷	平安中期写	301・25				
伝法灌頂相承略記	一卷	正治2年写又別	25・5				
三十帖策子目錄	一帖	仁平元年写	特14・15				
(武内孝善・木下良範・甲田博史・後藤雅則)							
二 仁和寺 (11・26~28) ※最下段は函番号							
十住心論	十帖	承安2年写	以下御11				
大日経開題	一帖	正安2年写					
大日経開題	一帖	平安末期写					
理趣経開題	五帖	鎌倉時代写					
金剛般若経開題	一帖	鎌倉時代写					
法花開題	一帖	寛治5年写					
文筆眼心抄积文	一册	明治41年刊					
十住心論 卷第一・二・三・四・六	五卷	鎌倉時代写	以下御12				
性靈集 卷第一・二・六・八・十	五帖	鎌倉時代写					
弁顯密二教論上	合一帖	鎌倉時代写					
秘蔵記(前欠)	一帖	鎌倉時代写					
秘蔵記	一帖	建久2年写					
曼荼羅疏秘蔵記上	一帖	貞治6年写					
平城天皇御灌頂三昧耶戒序(後欠)	一卷	鎌倉時代写					
平城天皇御灌頂文	一帖	鎌倉時代写	以下塔7				
太上天皇灌頂文	一帖	保延4年写					
灌頂表白多本	一帖	鎌倉時代写					

十住心論第一(打開集) 一帖 正中3年写 塔8
 金剛界念誦法次第上下 二帖 建久7年写 塔27

(村上保寿・武内孝善・中村正文・庄司知之・甲田博史)

平成二年度寄贈図書及び交換寄贈雑誌目録

以下の寄贈図書及び交換誌は平成二年四月より平成三年三月末までの間に登録したものです。当研究所の図書充実のために関係諸機関ならびに関係諸氏には今後とも御協力と御支援をお願い申し上げます。

寄贈図書

- 『生かしあつていのち』久保克児著 (いんなあととりっぶ社 平成2年4月) 霊友会殿
- 『オペレーション・ローリー 地球こそわが舞台』平凡社編 (日本電装 平成元年12月) 発行所殿
- 『空海思想の書誌的研究』高木神元著作集4 高木神元著 (法蔵館 平成2年12月) 著者殿
- 『空海入門—本源への回帰—』高木神元著 (法蔵館 平成2年9月) 著者殿
- 『興教大師覚鑿上人—その歩まれた道—』福田亮成著 (高尾山薬王院・ノンブル 平成2年4月) 発行所殿
- 『高校生の主張12』毎日新聞社編 (毎日新聞社 平成2年7月) 霊友会殿
- 『神宮文庫沿革資料』神宮文庫叢書IV 神宮文庫編 (神宮文庫 平成2年2月) 発行所殿
- 『世界のなかの日本II』国際シンポジウム第二集 国際日本文化研究センター編 (国際日本文化研究センター 平成2年2月) 発行所殿
- 『神宮文庫本・金剛三昧院本 太神宮参詣記』神道資料叢刊二 谷省吾監修 桜井治男・黒川典雄編 (皇学館大学神道研究所 平成2年3月) 発行所殿
- 『妙一記念館本 仮名書き法華経』索引篇 中田祝夫編 (霊友会 平成2年2月) 国際仏教学研究所殿
- 『近代日本文学論—大正から昭和へ—』中央大学人文科学研究所研究叢書7 中央大学人文科学研究所編 (中央大学出版部 平成元年11月)
- 『二〇世紀後半のヨーロッパ文学』中央大学人文科学研究所研究叢書6 中央大学人文科学研究所編 (中央大学出版部 平成2年3月) 以上同研究所殿
- 『如来教の思想と信仰—教祖在世時代から幕末期における—』伝道参考シリーズIII 神田秀雄著 (天理大学出版部 平成2年10月) 天理大学おやちど研究所殿
- K. Krishna Murthy, *Sculptures of Vajrayāna Buddhism*. Delhi: Classics India Publications, 1989. 乾仁志殿
- Morgan Gibson & Hiroshi Murakami, *Tantric Poetry of Kakai (Kobo Daishi), Japan's Buddhist Saint*. Bangkok: Mahachulalongkorn Buddhist University, 1982.
- The Reiyukai, ed., *The Development of Japanese Lay Buddhism*. Tokyo: The Reiyukai, 1986.
- The Reiyukai, ed., *The Reiyukai Movement: Buddhism as an Interreligious Philosophy*. Tokyo: The Reiyukai, 1987.
- The Reiyukai, ed., *The Philosophical Foundation of the Lay Buddhist Practice of the Reiyukai, as depicted in the Lotus Sutra*. Tokyo:

- The Reiyukai, 1988.
The Reiyukai, ed., *The Reiyukai Movement*. Tokyo: The Reiyukai, 1990.
以上発行所殿
- Paul Harrison, *The Sumathi of Direct Encounter with Buddhas of the Present*. Studia Philologica Buddhica Monograph Series V. Tokyo: The International Institute for Buddhist Studies, 1990.
発行所殿
- 交換寄贈雑誌**
- 1 アジア・アフリカ文化研究所研究年報〈第24号〉
東洋大学アジア・アフリカ文化研究所編 (同研究所) 平成2年3月
 - 2 アジア研究所紀要〈第16号〉▽亜細亜大学アジア研究所編 (同研究所) 平成2年2月
 - 3 叡山学院研究紀要〈第13号〉 智証大師一千百年遠忌記念号▽
叡山学院編 (同学院) 平成2年12月
 - 4 大倉山論集〈第27輯〉▽大倉精神文化研究所編 (同研究所) 平成2年3月
 - 5 大谷大学真宗総合研究所紀要〈第七号〉▽大谷大学真宗総合研究所編 (同研究所) 平成2年2月
 - 6 神奈川大学日本常民文化研究所調査報告〈第15集〉
神奈川大学日本常民文化研究所編 (平凡社) 平成2年10月
 - 7 紀州経済史文化史研究所紀要〈第10号〉
和歌山大学紀州経済史文化史研究所編 (同研究所) 平成2年3月
 - 8 教化研修〈第33号〉▽駒沢大学曹洞宗教化研修所編 (同研修所) 平成2年3月
 - 9 研究紀要〈第27集〉▽光華女子大学編 (同大学) 平成元年12月
 - 10 研究紀要〈第27集〉▽光華女子短期大学編 (同大学) 平成元年12月
 - 11 研究紀要〈第3号〉▽京都女子大学宗教文化研究所編 (同研究所) 平成2年3月
 - 12 皇学館大学神道研究所紀要〈第6輯〉▽皇学館大学神道研究所編 (同研究所) 平成2年2月
 - 13 高野山大学書学会報〈第10号〉▽高野山大学書学会編 (同書学会) 平成2年5月
 - 14 国際日本文学研究会集會會議録〈第13回〉▽国文学研究資料館編 (同資料館) 平成2年3月
 - 15 国士館大学宗教文化研究所紀要〈第8号〉▽国士館大学宗教文化研究所編 (同研究所) 平成元年12月
 - 16 商業史研究所紀要〈創刊号〉▽大阪商業大学商業史研究所編 (同研究所) 平成2年10月
 - 17 昭和63年度研究・活動助成報告集〈第7巻〉▽庭野平和財団編 (同財団) 平成2年12月
 - 18 信愛紀要〈第30号〉▽和歌山信愛女子短期大学学術研究会編 (同研究会) 平成2年2月
 - 19 人文研紀要〈第10号〉▽
人文研紀要〈第11号〉▽中央大学人文科学研究所編 (同研究所) 平成2年8月
 - 20 西山学報〈第38号〉▽西山短期大学編 (同大学) 平成2年3月
 - 21 禅研究所紀要〈第17号〉▽愛知学院大学禅研究所編 (同研究所) 平成2年3月
 - 22 智山学報〈第39輯〉▽大正大学真言宗智山研究室編 (智山勸学会) 平成2年3月
 - 23 中央大学人文科学研究所年報〈第11号〉▽中央大学人文科学研究所編 (同研究所) 平成2年3月
 - 24 天台学報〈第32号〉 平成元年度天台宗教学大会記念号▽

- 25 東京大学史料編纂所報 第24号 東京大学史料編纂所編 (同史料編纂所) 平成2年3月
- 26 東洋学論叢 東洋大学文学部紀要第43集 東洋大学文学部編 (同文学部) 平成2年3月
- 27 同朋学園仏教文化研究所紀要 第12号 同朋学園仏教文化研究所編 (同研究所) 平成2年9月
- 28 成田山仏教研究所紀要 第13号 成田山新勝寺成田山仏教研究所編 (同研究所) 平成2年3月
- 29 日文研 第3号 国際日本文化研究センター編 (同センター) 平成2年7月
- 30 日本研究 第2集 国際日本文化研究センター紀要 (同センター) 平成2年3月
- 31 日本研究 第3集 国際日本文化研究センター紀要 (同センター) 平成2年9月
- 32 東北大学文学部附属日本文化研究施設編 (同研究施設) 平成2年3月
- 33 福井県立短期大学研究紀要 第15号 福井県立短期大学附属図書館編 (同附属図書館) 平成2年3月
- 33 仏教学研究 第45・46号 武内教授・井ノ口教授定年記念 (同学会) 平成2年3月
- 34 龍谷大学仏教学会編 (同学会) 平成2年3月
- 34 佛教学報 第26輯 東国大学校仏教文化研究室編 (同研究室) 平成元年11月
- 35 仏教学会報 第15号 高野山大学仏教学研究室編 (同研究室) 平成2年8月
- 36 仏教研究 第19号 国際仏教徒協会編 (同協会) 平成2年3月
- 37 仏教美術研究 上野記念財団助成研究会報告書 (同研究会) 平成2年11月
- 38 仏教文化 第22卷通巻25号 (同研究会) 平成2年11月
- 38 仏教文化 第22卷通巻25号 天台学会編 (同学会) 平成2年10月
- 39 仏教文化 第23卷通巻26号 東京大学仏教青年会編 (同仏教青年会) 平成2年12月
- 39 仏教文化研究所紀要 第28集 龍谷大学仏教文化研究所編 (同研究所) 平成2年2月
- 40 平和と宗教 第9号 庭野平和財団平和研究会編 (同研究会) 平成2年9月
- 41 密教学 第23号 (同研究会) 昭和62年3月
- 41 密教学 第24号 (同研究会) 昭和63年3月
- 41 密教学 第25号 (同研究会) 平成元年3月
- 42 密教学 第26号 松尾義海名誉教授追悼号 種智院大学密教学会編 (同学会) 平成2年3月
- 42 民具マンスリー 第22卷9号 (同研究会) 平成元年12月
- 42 民具マンスリー 第22卷10号 (同研究会) 平成2年1月
- 42 民具マンスリー 第22卷11号 (同研究会) 平成2年2月
- 42 民具マンスリー 第22卷12号 (同研究会) 平成2年3月
- 42 民具マンスリー 第23卷1号 (同研究会) 平成2年4月
- 42 民具マンスリー 第23卷2号 (同研究会) 平成2年5月
- 42 民具マンスリー 第23卷3号 (同研究会) 平成2年6月
- 42 民具マンスリー 第23卷4号 (同研究会) 平成2年7月
- 42 民具マンスリー 第23卷5号 (同研究会) 平成2年8月
- 42 民具マンスリー 第23卷6号 (同研究会) 平成2年9月
- 42 民具マンスリー 第23卷7号 (同研究会) 平成2年10月
- 42 民具マンスリー 第23卷8号 神奈川大学日本常民文化研究所編 (同研究所) 平成2年11月
- 43 武蔵野女子大学仏教文化研究所紀要 第8号 武蔵野女子大学仏教文化研究所編 (同研究所) 平成2年3月
- 43 龍谷史壇 第96号 龍谷大学史学会編 (同史学会) 平成2年7月

- 45 龍谷大学社会学部紀要〈創刊号〉龍谷大学社会学部紀要編集委員会編
 (同大学社会学部 平成2年1月)
- 46 龍谷大学論集〈第43号〉龍谷学会編
 (同学会 平成2年7月)
- 47 歴史と民俗〈5〉
 (平成2年7月)
- 歴史と民俗〈6〉神奈川大学日本常民文化研究所編
 (同研究所 平成2年10月)
- 48 *Japan Review* No. 1 国際日本文化研究センター編
 (同センター 平成2年)

密教文化研究所構成員名簿

所長	(兼)	松長 有慶 (文学部教授)
教授		村上 保壽
助教授	(兼)	和多 秀乘 (文学部教授)
助教授	(兼)	武内 孝善 (文学部助教授)
助教授	(兼)	山陰加春夫 (文学部助教授)
講師		乾 仁志
講師	(兼)	東 智學 (文学部教授)
研究員	(兼)	蜜波羅鳳洲 (文学部教授)
研究員	(兼)	藤田 光寛 (文学部助教授)
研究員	(兼)	松長 恵史 (清風学園常勤講師)
研究員	(兼)	斎藤和佳子 (ミラノカトリック大学留学)
研究員	(兼)	デイヴィッド・ガーディナー (スタンフォード大学博士課程)
事務局長	(兼)	土生川正道 (学監)
事務職員		甲田 博史
事務職員		後藤 雅則
事務職員		跡部 正紀 (非常勤)
事務職員		高木 真也 (非常勤)
*退職		
事務職員 (主任)		庄司 知之 (平成三年九月三十日付)

密教文化研究所規定

第一章 名称及び所屬

- 第一条 この研究所は密教文化研究所と名づける。
 第二条 この研究所は学校教育法第六十一条及び高野山大学学則第一百七条第二項に基づき高野山大学内に設ける。

第二章 目的及び事業

- 第三条 この研究所は真言密教の濫興を究め、これを顕揚すると共に現在の社会に貢献するを以て目的とする。
 第四条 前条の目的を達成するための次の事業を行う。

第三章 組織

- 第五条 この研究所の構成員を次のとおりとする。

- ① 所長 一名
- ② 副所長 一名
- ③ 教授 若干名
- ④ 助教授 若干名
- ⑤ 講師 若干名
- ⑥ 助手 若干名
- ⑦ 研究員 若干名
- ⑧ 事務局長 一名
- ⑨ 事務職員 若干名

- 第六条 所長及び副所長は学長が選任し、理事会の承認を経て理事長がこれを委嘱する。

- 2 教授・助教授・講師・助手（以下教員）の新任及び昇補は、教員の新任及び昇補に関する規程に従い、学長の具申により理事長が承認の上これを任命する。

- 3 前項の規程は、別にこれを定める。
 4 研究員は学長が所長と合議の上これを委嘱する。
 5 事務局長は高野山大学学監がこれにあたる。

- 第七条 所長・副所長・助手の任期は三年とし、研究員の任期は一年とする。但し重任を妨げない。

第八条

所長はこの研究所を総攬しこれを代表する。副所長は所長を補佐し所長事故ある時はその職務を代理する。教員は各年度の研究課題に従い所長の命を受けて研究に従事する。

第九条

研究員は所長の依頼を受けて、特定の研究に従事する。事務局長はこの研究所の会計・庶務等の事務を掌理する。事務職員はこの研究所の事務に従事する。

第十条

この研究所に教授会を置く。
 教授会に関する規程は、別にこれを定める。

第十一条

この研究所に顧問及び賛助員を置く。
 顧問は所長が学長とはかり理事長の承認を経てこれを委嘱する。

第十二条

賛助員は所長が学長とはかりこの研究所の事業に賛助した者の中から理事長の承認を経てこれを委嘱する。

第十三条

この研究所の経費は学校法人高野山学園予算・研究助成金及び寄附金をもってこれに充てる。

第十四条

この研究所の会計年度は、四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わる。

第十五条

この規定の改廃は、学長が所長とはかり理事長の承認を経て行う。

附 則

- 一 この規定は昭和三十三年四月一日より施行する。
- 一 この規定は昭和五十一年四月一日より施行する。
- 一 この規定は昭和五十九年四月一日より施行する。
- 一 この規定は平成二年二月十六日改定、同日より施行する。
- 一 この規定は平成三年二月十八日改定、同日より施行する。
- 一 この規定は平成四年四月一日改定、同日より施行する。

執筆者紹介（掲載順）

編集後記

村上 保壽 密教文化研究所教授

武内 孝善 密教文化研究所兼任助教
（文学部助教）

乾 仁志 密教文化研究所講師

デイヴィッド・ガーディナー 密教文化研究所研究員
（スタンフォード大学博士課程）

松長 有慶 密教文化研究所所長
（文学部教授）

。平成四年二月、武内孝善助教が、平成三年度の高野山大学密教美術奨励賞を受賞されました。受賞の対象となった「理趣経の付加句をめぐる諸問題」は、『理趣経』の付加句の起源について、古写本類の調査をもとに厳正な見解を提出したもので、日本密教史の解明に大いに寄与するものとして評価されたものです。

。平成三年十一月、村上保壽教授は、松長有慶所長に代わって、ドイツのベルリンで開催されたジャパンフェスティバルに、またイタリアのアッシジで行われた高野山とアッシジの交歓会に参加され、高野山および真言密教について講演し、仏教とキリスト教の文化交流に努めました。

。当研究所では平成二年度より海外学術調査を開始することになり、本号の裏報にあるように平成三年四月上旬に第一回バングラデシュ密教学術調査を行い、また平成三年十二月下旬より同四年一月上旬にかけて第二回の調査を行いました。これら第一回・第二回の調査報告は次号におこなう予定であります。

。弘法大師著作研究部門において、平成三年度は石山寺・醍醐寺・東寺・高山寺で聖教調査を行いました。また念願の『定本弘法大師全集』（全十一巻）の刊行を開始することになり、平成三年七月に第一回配本として、『御請来目録』など四編を収めた第一巻を上梓しました。引き続き第二回配本（第七巻『三教指帰』など）に向けて、現在編集作業を進めています。

。「信仰と道」企画班は平成二年度より、「日本人の宗教意識と弘法大師信仰」というテーマにそって、高野七口といわれる高野街道の実地調査を開始しました。それらの調査報告は随時『高野山時報』の誌上にて行っています。

。その他、研究部門においては、同和研究会の開催、弘法大師著作研究部門の密教関係聖教類の調査協力、日本印度学仏教学会の論文データベース採取協力、紀要の発行を行い、またコンピュータ導入による事務処理の機械化（購入図書、聖教類、マイクロフィルムなどの整理）等を行っています。

。今回の紀要には松長有慶、村上保壽、武内孝善、乾仁志、デイヴィッド・ガーディナーの諸先生の論文を収載しました。松長有慶所長の二編はベルリンでのジャパンフェスティバル、アッシジでの高野山とアッシジの交歓会にて配布された講演用パンフレットから転載したものです。『密教文化研究所紀要』が益々充実し発展しますよう、今後共諸先生の一層の御協力と御支援をお願い申し上げます。

（平成四年二月、R・I）

高野山大学密教文化研究所紀要 第五号

平成四年三月 十日 印刷
平成四年三月二十一日 発行

編集者 密教文化研究所

代表者 松長有慶

発行所 密教文化研究所

和歌山県伊都郡高野山高野山大学
電話 (0736) 512131 ☎ 68103

印刷所 第一印刷出版株式会社

大阪市福島区福島七-13-1
電話 (06) 5666716 ☎ 55